

木造による中高層や大規模建築、スケルトン躯体の研究開発、企業との共同研究など、新しい木造建築の可能性を広げるべく、積極的に研究開発活動を進めています。

## 略歴

1965年4月生まれ、博士(工学)、一級建築士。明治大学大学院 理工学研究科 博士課程 修了。旭化成、住友林業にて、主に新しい木質構造の技術開発や商品開発、技術戦略等に従事。木質構造研究基金賞：第一部門(杉山英男賞) スウェーデン王立技術研究所でのプロジェクトリーダー(現地駐在)を経て現職。東京理科大学 非常勤講師。本学体育会スキー部顧問。

## 所属学会など

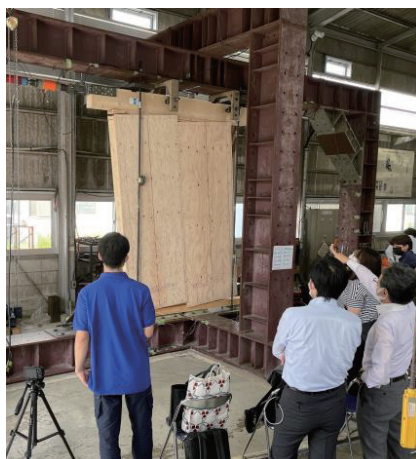
- ・日本建築学会 (木質構造教育プログラム策定委員会幹事、マスティンバー構造設計幹事)
- ・木質構造研究会 (理事)
- ・JIS委員会 (木質構造用ねじ)
- ・International Scientific Committee of ICTB
- ・その他、国内外の学会など

## 研究紹介

## 木質構造に関する研究



**極大地震時における緊急損傷判定技術の開発**  
緊急時に木造住宅の損傷度合を応急判断できる診断装置の開発を進めています。大地震発生直後の居住者の不安を軽減すべく、新築既存に関わらず、専門家でなくとも居住者自らが応急判断できる手法を目指しています。



**制振耐力壁・木造耐力壁の劣化抑制に関する研究開発**  
粘性材料や摩擦材料を活用して耐力壁の経年劣化を抑制、かつ極大地震でも損傷を大幅に低減させます。



**CLT中高層木造建築の開発**  
設計に活かせるようCLTの曲げせん断実験、圧縮引張の接合部実験等の他、耐久性性能実験も行い、国産材の有効活用を目指しています。

## 共同研究の事例

- ・木造制振耐力壁に関する研究 (企業、京都大学 防災研究所・生存圏研究所)
- ・木造住宅の非構造壁が耐震性能に及ぼす影響 (住宅メーカー、素材メーカーとの共同研究)
- ・木造ラーメン構造の開発 (企業との共同研究)
- ・木質構造用ねじJIS化に関わる検証 (工業会)
- ・NLT耐力壁の検証 (日本建築学会の規準作成)
- ・CLT構造の設計法作成のための実大震動台実験 (国の研究所、複数大学、企業との共同研究)

## 主な論文発表

- ・Hideyuki Nasu; Keynote Presentation, Examples of Japanese wooden bridges and Japanese wooden structures, ICTB 2017, Sweden
- ・那須秀行 他; 木造ラーメン構造による実大3層立体フレームの振動台実験, 日本建築学会 構造系論文集
- ・枠組壁工法へのシアリンク式摩擦ダンパーの適用に向けた研究, 日本建築学会 技術報告集, 2020
- ・DEVELOPMENT OF HIGH STRENGTH BEARING WALLS FOR FRAMEWORK CONSTRUCTION METHOD, WCTE 2023, Norway

